

令和7年度 第3回磐田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和8年3月9日（水）午後3時から午後4時30分まで

【会 場】 磐田市役所本庁舎大会議室

【出席者】 13名

【欠席者】 1名

【事務局】 6名

【その他】 サーベイリサーチセンター 1名

1 開会

2 新委員自己紹介

3 協議事項

（1）第2期磐田市スポーツ推進計画策定について

（2）令和7年度 スポーツ推進事業の実績見込みについて

（3）令和8年度 スポーツ推進事業計画について

（4）その他

【会議録】

事務局

資料 第2期磐田市スポーツ推進計画（案）

令和7年度スポーツ推進事業実績見込み

令和8年度スポーツ推進事業計画 に沿って説明

議長

それではただいまの説明を踏まえてご意見等あればお願いいたします。いかがでしょうか、なんでも結構でございます。これちなみに、みなさまにもう送付していたというので、みなさん一応はもう読み込んでいただいているという前提でおりますが。概要版というのはいきたい何ページくらいになるのでしょうか。

事務局

概要版は8ページほどで計画をまとめさせていただく予定です。

委員

このウォーキングマップイン磐田は今までに見たことがないようないいものだと思います。スポーツというのは全市民が集うということは、なかなかアクティブなスポーツのほか、なかなかないと思います。ただウォーキングというのはその環境整備とか、そういったことをしっかりやっておけば、非常に豊かな磐田市というふうに結びつくのではないかな。親子関係もそうだし、それから夫婦もそうだし、それから少し歳を取られた私のような人であるとか、これはぜひ推進していくべきかなというふうに思います。一方最初に出された、この第2期スポーツ推進計画にまとめていただいた、前回も話はあるのですけれども、要約をするなら9ページだと思うのです。この9ページのところで、例えば市民一

人ひとりのWell-beingという言葉が出てくるのですが、市民の方に刺さるのかなというのはちょっと不安です。と言ってもWell-beingとはどういう意味があるのかなと調べてみると、健康かつ幸せな状態を示す言葉、総合的な幸せというふうにあるのですが、この辺のところが、スポーツのまち磐田として、スポーツ×健幸、感動はわかるが、でも共創と共生はどのように理解していただけるかというのは、ちょっと一工夫必要ではないかなと感じました。こどもがすっとう入ってきて、市民の人がその通りだ、スポーツのまち磐田をつくっていいこうという気持ちになるには、もう少し解説が一つ一つあるといいなという意見を持ちました。一応始める前に自分でも予習はしてきたのですが、言葉がすっと市民の方に入るような工夫があれば、なかなか色々なことを市のほうやっつけられているのいいなと思いますし、更なるスポーツのまちとして輝くものになっていくというふうに思いますが、要するに市民がどこまで納得してそうだ、そうだ、と思うような簡単なシンプルな、言葉は非常にわかりやすくしてほしいなと思いました。Well-beingと聞いてもわからない、僕も勉強しますが。

事務局

今Well-beingという言葉が全国的な広がりかもしれませんが、総合計画の中でも進める指標として、よく出てきている言葉であります。よく出てきている言葉でありましたのでそこが市民感覚とずれている部分があったかもしれませんが、そこと整合を取りながらしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思っております。もう一件、ウォーキングマップについても温かいご意見をありがとうございます。マップにつきまして、観光マップとかはよくあるのですが、ウォーキングマップというところがなかなかなかったので、こういったものを作成させていただきました。今日ウォーキングマップを担当した職員もいますので、せっかくですので、こういった部分を配慮したとか、そういったものを言ってもらえたらと思っております。

まずそちらのマップなのですが、先ほど説明があった通り、昨年度実施をした調査から市民の方が取り組んでいるスポーツという部分と、これからやってみたいと思われるスポーツというところから、ウォーキングというのがすごく需要があるものだなと。先ほどの委員の言葉で言う、納得感という部分でいくと、ウォーキングについてもう少し伸ばせる余地があるのではないかと、というところからスタートして、市内の観光マップなども調べたのですが、観光マップにたくさんありましたが、やっぱりウォーキング、スポーツに特化したものについては磐田市にまだなかったものですから、既存のマップを参考にしながら、どこをコースとして設定しようかなというところで、市内満遍なくつくれるように、中学校区という言葉が皆さんに親しみがあるかどうかはわかりませんが、豊岡、福田、竜洋、豊田、磐田それぞれでコースを設定するように心がけました。あと健康増進課とも連携をしていますので、スポーツのまち推進課と健康増進課の職員が実際に歩いて、それぞれのコースの危険箇所がないとか、安全な場所、安全なところで歩けるか、文化や歴史のところを少し絡めながら見どころはどこか、ただ歩いているだけでは楽しみということとで、考えさせてもらっています。ウォーキングマップの今後になるのですが、来年度以降、いろいろなイベントとか、授業で活用していきたいと考えています。また、毎年二つずつぐらいコースを新たに増やしていきたいとも思っています。ただ毎年印刷をしていると、少し紙代、印刷代がかかってしまうので、インターネット、ホームページのほう

で二つぐらい増やしていったらいいなと思っております。ある程度またコースが増えたところで、第2版というところで新たなコースを追加したウォーキングマップを印刷して皆さんの目に触れるような場所に置いていけたらいいなという構想も練っております。以上です。

委員

市民としてウォーキングは誰でもできることかなと思います。こういうマップは案外知られていないというか、認知されていないと思うのですが、例えば回覧するとか、そういうことは考えられますか。そういうことによって、地元にもこのようなものがあるということで、行ってみようかなというふうに思われるのではないかなと思いますが。どうでしょうか。

会長

今回初めてできたものですから、これからどういうふうにやっていくかということを含めて説明があるかと思いますがお願いします。

事務局

はい。ありがとうございます。今のところ、やはり公共施設や体育施設等に置かせていただいて、手に取っていただくというところと、あとイベントに付随して例えば「楽 La 歩ウォーク」を今度3月20日から行いますが、そこではららぽーとへの参加者も増やしたいというところから特典みたいな形で、できたてほやほやのウォーキングマップを先行配布しますみたいなところを考えているので、イベントなどでお配りする形を考えておりました。回覧という情報が届きやすい方法については、我々としてもちょっと落ちていたかなというところで、良い方法を教えていただけたなと心から思っております。以上です。

委員

追加で今後というところで結構ですので、せっかくこれだけ10コース作っていただいて今私達もスポーツ協会のほうでウォーキングというのはさせていただいているのですが、これを見ますと、50分とか25分の1時間以内のコースで、簡単に歩けるコースをまずは設定したのだと思うのですが、今後、先ほどおっしゃったように、2時間コースとか、2時間ぐらいでいいと思うのですが、作るとか、例えば今見て、10コースの中で何番と何番をくっつけたらこうなるよとかというのが、今ちょっと間がないものですから、うまくくっつかないなということを感じたのですが、そういったのも今後加えていただければ、楽しさも広がるし、機運も沸いてくるのではないかなと思います。ですので今後で結構ですので先ほどおっしゃったように、そんなスタイルで2時間コースでぐるぐる回れるコースとか、番号が振ってありますので、何番と何番をくっつけたらこんな形のモデルコースになるよというような、そういったものも少しずつ考えていただければいいかなと思います。以上です。

事務局

そうですね。また今後について、まずこれが最初の取っかかりになりますので、これを皆様に周知をさせていただいて、そこからいろんな意見があると思いますので、またより良い改善につなげていきたいと思っております。また、交流センターのセンター長会議など、そういった場で地域に配架できる場所とかの意見を伺いまして、地域全体に届くようにしていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いしたいと思っております。

会長

はい。どうもありがとうございました。ウォーキングマップのコースについてはまだまだ改善をするところもあるだろうということで、また新たな魅力も磐田の中にもあるという話も出てくると思っていますので、それは常にリフレッシュしていきたい、していくという方向でございます。ヤマハスタジアムも入っているものですから良かったなと今思いました。ここで全員に質問です。1週間に1回ぐらいウォーキングをしてますでしょうか。している方、手を挙げてください。1週間に1回以上の方、いやそんなのやってないよという人も二人くらいいらっしゃる。この中ではみなさん結構ウォーキングしているなという感じがします。きっと市民も多くの方が歩いているなということを見ても思っていますので。では全体に戻って、他のご意見ございますでしょうか。

委員

学校の立場というところで、ちょっと意見をさせていただきたいなと思います。まずスポーツ。さっきの健康というところで、このスポーツ推進計画の13ページを見ていただくと、こども達は基本、体育授業は好きですね。苦しいのは嫌いですけれど、楽しいボール運動とかそういうのが非常に好きで、体を動かすことが基本的には好きだと思います。ただ、今までずっと磐田地区、それから磐周地区で行われていた水泳大会、陸上大会すべてなくなってしまった関係で、私達教員は劇的な運動能力の低下、これはもう、避けることができないところにいる。体育の推進をしてますけど、危機的な感情を持っているというところが正直なところなんです。そういった中で13ページ、「SPO☆CUL IWATA」は、今後スポーツや文化芸術に親しむ機会を確保して、学校の枠を超えて仲間とともに親しみ、楽しみ、挑戦できる新たな地域クラブ活動。スポカルという名前は結構皆さん聞いてはいるのだけれども、保護者の方、市民の方とお話したのですが、正直なところ私は現場の小学校にいますが、スポカルの現場の教員が指導者募集みたいなものがとられているのである程度わかっているのですが、現場にいないと詳細がよくわからない。答えられないというのが現実です。今日午前中に竜洋地区の4校の小中学校の校長が、スポカルの話になったのですが、中学校の校長も保護者から聞かれた時に、具体的に答えられないということがある。2～3年たてば大分変わってわかってくるんじゃないですかと言ったら、実際お子さんがいる家庭は2～3年待てない。なかなか難しいところがいっぱいあるということは私も承知です。部活動が、来年度は1学期は5時15分まで部活をやるけれども、夏休み以降は4時半にすべて切ると言っていました。4時半にすべて切るというのは驚きですよ。昔は6時過ぎまで部活をやっていたし、小学校でさえ6時まで部活をやっていたので、今もう3時頃小学生は帰ってしまいますし。劇的に運動の機会が減っているという現状をやっばり知った上でいろいろこういうふうに計画していくことと、スポーツ×感動とかいろいろ見栄えはいい。ジュビロやレヴズの一斉観戦。こういうイベント的なものがとても大事だ

と思うのだけれども、僕は実を取りたい。やっぱりこども達が運動に関わる機会をいろいろ作ってあげないと、学校現場は残念ながらそれは奪われてしまっているのです、こういうところも大事にするべきだと思いつつも、実際、例えば幼児とか小学生の親子ふれあい教室とか僕は非常に大事なものだと思っております。こういう機会を、こういう場をもっと提供することを行政側がしていけないと、なかなか難しいところが、今は過渡期だと思いますけれども、小学校の教員とか中学校の教員がもっとスポカルに理解を得るために、3月に理解するための動画配信があるということを今日耳にしました。そういうところで、現場は理解をしつつ、こういうところに寄与できるようにしていきたいなというふうに思いますので、私もせっかくこの会議に出させていただきますので、現場でなるべく声を上げて、協力できたらと思います。

会長

どうもありがとうございます。スポカルについては部署がちょっと違うものですから、答えにくい部分が事務局はあるかもしれませんが、今のご意見を参考にして、何かありますでしょうか。

事務局

ご意見ありがとうございます。市役所の中の話で大変恐縮なのですが、スポカルの指導は教育委員会の放課後活動課というところが主導して、今後のこども達の部活動について検討を進めている状況です。スポカルの審議会のほうに私も中西先生が委員長で、副委員長が高橋会長、そして私も審議会の委員のメンバーとして出させていただいておりますので、現状の進め方というのはその会議を通じて承知はしております。ただ、役所の縦割りのなところがあって、私達は私達でこども達に運動する機会を提供するという役目がありながら、スポカルの部分は少し立ち入っていないという現状があります。ただ、今後数年後には、きっと学校部活から離れて、またこちらのスポーツを推進する部署にそういったこども達の活動について機会を提供するというようなところはこちらに戻ってくるのではないのかなというふうに私は個人的には想像しております。ですので、私達として今現状でできることをやっていきたいと考えておりまして、こども達に本物に触れる機会の提供ということで、様々な教室とか、そういったものを来年度も事業として考えております。皆様のところに、陸上競技場のチラシを配らせていただいておりますが、陸上競技場がリニューアルオープンをしますが、そこにも飯塚翔太さんという、陸上アスリートに来ていただいて、この方に教室をやっていただくとかということで、こども達が本物に触れる機会というのを提供していきたいと考えておりますし、来年度ジュビロ様、レヴズ様にもご協力いただきまして、様々な、一つの種目ではなくて、サッカー、ラグビー、バスケ、卓球とか、いろんな種目を体験できるような場も設けていきたいと考えておりますので、市長部局としてやれることを地道にやっていきたいというふうに、今現状では考えております。説明になっているかどうかわかりませんが、以上です。よろしくお願いします。

委員

私、部活動の地域移行を数年来やらせていただいているのですがけれども、スポカルに関して、現場の先生方に大変不安とかご心配をお掛けしているといろいろな方面からお聞きしますので、我々の力不足かなと思います。申し訳ございません。いくつか問題点がある

のですけれども、一つは、今までずっと戦後から運動部活動というものに、こども達のスポーツ機会を提供する場として定着してきていたものですから、それが少子化の影響でもう維持できないということに加えて、先生方の働き方改革の問題もあって、土日部活動に関われないということで、どうしたものかということで我々としては、先ほど先生がおっしゃったようにこども達の運動する機会というのは何としても確保したい。運動する機会だけではなくて、文化活動としての部活動の意義にも大変大きなものがございますので、そういったものを確保するためにどうするのかということで、スポカルという、もう本当にざっくり言うと要は、スポーツでいうと地域間の合同部活のようなものですね。要は、例えば野球をしたいという子がいたとしても一つの中学校だと8人しかいないとしたら1チーム組めないということで、近隣の中学校で二つ三つ合わせて、一つのチームとして試合や練習をやっているというような形を目指しています。もちろん、本来でしたらこども達は今までですと、自分達の学校の授業が終わるとそのまま自分達のグラウンドで先生が教えてくれて、スポーツができるということが、よその中学校に行かなきゃいけないから移動の問題がありますし、そこでやってくれる先生が誰なのかという指導者の問題もありますし。そこに係る経費はどかが負担するのかといったところを整理して参りました。だいたいの仕組みに関して、YouTube動画で説明しているものがあるのですけれども、なかなか視聴回数が伸びないというのは、我々の周知の仕方にも問題があるかと思うのですけれども、それを見ていただければ、大分そういったところもクリアになってくるのかなというふうには思っております。先ほど先生おっしゃられたように、我々側も、こども達の運動をする機会を何とか確保したいという思いからやっておりますので、その辺のご理解をいただきたいというふう思っております。実際には、一番の問題はなかなかその新しい形になるということで、例えば、こども達は試合には出れなくなるとか、そういった表現として適切かどうかわからないのですけれど、噂ベースのほうが根強く出ますので、そういうところを我々もちょっとどうにかしなきゃいけないということで、例えば校長先生が集まる会でしたりとか、保護者会だったり、できるだけそういったところに向けて教育委員会のものが説明に出掛けておりますので、もし明らかにしていきたいということがあれば、時間はかかるかもしれないのですけれど、周知を徹底していきたいというふうに思っておりますので、ご理解をしていただければありがたいかなと思います。

会長

どうもありがとうございました。その他この件についてありますでしょうか。私どものスポーツ協会中心に県の市町駅伝へ、小学生中学生に出てもらいたいということで、毎年募集するのですが、先日僕は出なかったのですが、担当者の学校の小中の校長先生かな、どんなふうにしたら、もう少し人数が集まってくるかなというお話のときに、先生方からご指摘を受けたのは、チラシで参加してくださいという呼びかけの仕方に工夫をしましょう。それは、走りが好きな子は参加、というのはだめだと言うのですね。好きでも嫌いでも参加、みたいなその窓口を広げたほうがいいよということと、それから説明会ではなくて、歓迎会ですというような書き方にしたほうが良いというご指摘を受けて、その辺を他の市町もそのようにしてるところもあるということもあって、取り入れるようにしています。一つ一つの表現が難しかったり、あるいは、ある一定の人達に対する呼びかけみたいになるのではなくて、もう少し広範囲にこども達に、スポーツもカルチャーも参加できますよという、そういう機会を与えるということを教育委員会のほうも考えているものです

から、学校から地域へ展開する中で、そのことを大切にしようというふうにはやっていると思いますので、ご理解をしていただければというふうに思います。先ほど共創、共生とかという言葉があるけれども、実際市民にどれだけ受けているかということが問題点があるよという委員のご指摘がありましたが、それと同じようにですね、わかりやすい言葉で具体的な例をもってしていくということが、この中でも随分具体例を出してやっていただいておりますが、もっともっとそれを突き詰めていくというか、新しい知恵を出していくということが必要なと、今議論を聞いていて思いました。その他何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

委員

14ページです。野球のことが載っているのですが、随分参加人数が多いですね。1部が213名、2部が148名。5歳から10歳という形になっているのですが、こういうことをやっているにもかかわらず、8年度の計画には野球のことに關しては全然載ってないのですが、それはどういうわけですか。せっかく今、中学校で学校で1人とかいうところを3校で揃って進めるというような話が出ていたのですが。このこども達のあてを考えていれば、それが当然3年後とか5年後と、このこども達が、ひょっとして野球をそのまま続けてくれるんじゃないかなと。そしたら中学校に人が入っていいのではないかなと思うのですけれど、そこら辺はどういうふう考えているのか教えていただきたい。

事務局

令和7年度のスポーツ推進事業についてというところで14ページ、MLB PLAY BALL in IWATAというところだと思いますが、こちらのイベントにつきましては、市制20周年を記念いたしまして実施した事業になっております。来年度以降、野球の具体的なものはありませんが、そういった声を生かしながら進めていきたいと考えております。以上になります。

会長

令和7年度のスポーツ事業をずっとまとめてありますが、スポーツだけでなく、磐田市制20周年ということで行った事業イベントが結構ありまして。この近隣に比べてもすごいたくさん磐田はやることができよかったなあというふうに思いますが、そういうことで、野球のこともしました。令和8年度についても、こういう方向でこういう中身でやりますよというふうに今事務局が出しくださっていますが、そういうことを続けていくことが必要じゃないかとか、あるいは野球のほうの関係者、あるいはその他の事業でもこういうことをおっしゃっているぞというようなのは、具体的というか、臨機応変にやっていくという考えでいいでしょう。

委員

いろいろ説明など、皆さんありがとうございました。個人的に伺いながら、質問したいな、手を上げようかなと思ったところだけなのですけども。3月14日の陸上教室の件が今年の事業見込みに入っていないなと、ふと思ったのですけれども、この辺りは今後更新されるようなところになっているという理解でよろしいでしょうか。

あと、推進計画も8年度の事業計画もこれ私もいろいろ自分で仕事をしながら感じていることとかもあるのですが、先ほどのスポカルの動画も含めたことでもあるのですけれど

も、結局伝わってなかったら、伝えていないことと同じだということ。伝えたつもりが伝わっていないということは往々にしてよくあることだと思っていました。作っているんだよと伝えても、結局見てもらえなかったら伝わっていないみたいなのところがある。やっぱりどうやったら、私も一市民としてだとは思いますが、見てもらえるのか。見ようと思うかみたいなのところは、正直ベースのところ多分こちらの意見書の中に入っていること。本音と建て前といったような話があると思うので、何とかみくだきにくいものもあるとは思いますが、そういったところを突き詰めていかないと、本当にせっかくよく作っていただいた計画が理解されないまま計画として進んでいって、ある一定の数字には絶対になるとは思うので意味のあるものにはなるとは思うのですが。その意味が伝わらないと、何かと何かの距離、市民と計画とか、そういったところの距離感にならなければいいなというんなお話を聞きながら思ったので。私も色々スポーツに携さわせていただいている立場も含めてどうやってその距離を埋めるのかなというのもお話を聞きながら考えたのと、残されている任期の中で皆さんと一緒に考えることができたかなと思いました。感想みたいなのところで申し訳ないです。

事務局

委員がおっしゃっている通り、伝わっていないとやっていないことと同じということは、常々私達もそこは自戒の意味も込めてちゃんと伝える必要があるということはおっしゃいます。ただ、今デジタル化ということで、紙ベースのものを配布するというものが非常に制限がかかっておりまして、私どもも予算要求の中でこういった印刷物を作って、こども達全員に配布したいというものもすべてデジタルで考えなさいというふうに今はもうなっております。ですので今磐田市の公式LINEを通じてやるとか、SNSを使ってお知らせをしているのですが、やはり紙ベースでまくよりも反応が薄い、参加者が集まらないというところがございます。私どももすごい、その辺が事前までどうすれば皆さんにお伝えできるのだろうかということも、日々考えておりますので。もしよろしければこういったことで、市民に伝えていったらいいのではないかと、何かお知恵をお借りできればと思ひまして、皆さんぜひご意見がありましたら伝えていただけるとありがたいです。よろしくお願い致します。

委員

紙による効果と、あるいはSNSとかの効果を考えてみたときに、今明らかにSNSのほうがやっぱりインパクトがあると思います。実は昨日、観光大使のコンテストをやっていたので、その時に応募してくれた若い人達にどういったところで情報を得ていますかと聞きます。ほとんどインスタグラム。磐田市はなぜかFacebookが多いとかいろんな意見があったのですが、SNSについては浸透しているし、安価ですね。紙ベースはどうしてもお金がかかる。これは時代の流れでやっていったほうがいいのではないかと思います。磐田市から発信するというのは、例えば磐田市観光協会とか、スポーツ協会から発信するのとは重みはかなり違うと思うのですが、よりよい形での啓蒙活動であれば、SNSをどんどん発信していくほうがいいと思います。

委員

告知という点でいくと、先日静岡市でラグビー教室をやったのですが、昨年度は初めて

やったというのもあったのですが、市の広報のほうにイベントの情報を載せていただいたら、70人ぐらい応募があったのですが、今回はタイミングが遅かったので広報に載せられなかった。割と、静岡市の特徴かもしれないですけど、市の広報誌というのは全戸に配布されるものだと思うので、やっぱり市の広報誌というのは、情報発信して、キャッチしていただくという面ではかなり有効なのだと改めて思ったので、当然SNSもそうですけれども、やっぱり広報誌というのは情報を発信するにあたっての有効だと感じたしだいでした。そこをうまく活用していろんな情報に行ってもらえるようにするというのが一つ方法かなと感じました。

委員

今お話にありましたようにSNSは我々もずっと課題です。確かにスポーツでレヴズもそうですけれど、スポーツには発信力がある、それは皆さん承知していただいています。やはり年代によって見るものが違ってくるといった場合がございます。先ほど出たように、インスタグラムもあればXもあればTikTokもあればFacebookもある。今ではYouTubeも。いろんな角度から発信していかないと、すべての年代に届かないというのが課題になっております。これをやったら届きますといったものはないのが正直なところ。なのでやり続けると、やっぱり発信を続けたらやっぱり継続は力なりと思いますけれども、そういったことをやっていくしかないかなと思います。

委員

すみません、今の話なのですが、私たちもいろんな教室とか企画して募集をするのですが、SNSの募集なのでその一コマを見過ごすという募集しているのかわからないというパターンになってしまっていて、ここがすごい難しいというふうに感じています。この間課長とお話させていただいたのですが、今磐田の募集をするとか、皆さんに伝える情報が紙媒体じゃなくて、もうそういうSNSで伝えるようになっていきますよということを市民の皆さんにまずお伝えしないと見てくれないと思うのです。そこがちゃんと伝わっていますかというお話をさせてもらったのですが、なかなか難しいみたいで、時代とともに変わっていくというのはもうそこは仕方がないと思っているのですけれど。私達はよく年配の人のサロンに行ったりとか、内容もユニバーサルのことを載せたりとかするので、おじいちゃんおばあちゃんにお会いするのですけれども、SNSをやっていないのですね。やっていないので、見る機会がないのですよね。だから、実際にはそのサロンに行ったときに、この間もボッチャをお伝えしたのですけれど、すごい面白いからやりたいと言うけれど、それはボッチャのフェスティバルをやった二日後なのですね。だからそういうのをやっているというのは皆さんに伝わっていないので、そこがすごく残念だなと思っているのです。いい知恵があったら皆で考えて伝え方というのはわかってもらったほうがいいのではないかなというのをここ最近感じました。

会長

それでは皆さんにいろんなご意見を伺いましたけれども以上で、（１）（２）（３）の協議を終わりたいと思います。

事務局よりお礼と連絡事項